

(低視程対策)

計器着陸装置(ILS)の 카테고리(CAT)ⅢB化について セントレアのILSが国内No.1に進化！国内4番目のCATⅢB空港へ！

中部国際空港セントレアの計器着陸装置(ILS)が、2009年2月12日より、国内最高水準の 카테고리(CAT)ⅢBに移行します。

1. ILS 카테고리(CAT)ⅢBへの移行

セントレアの36ILS(南側進入)は、昨年4月10日より視程が悪い海霧等でも就航が可能なCATⅢAでの運用を行っていましたが、更なる低視程でも就航が可能となるCATⅢBの運用を2月12日開始することとなりました。

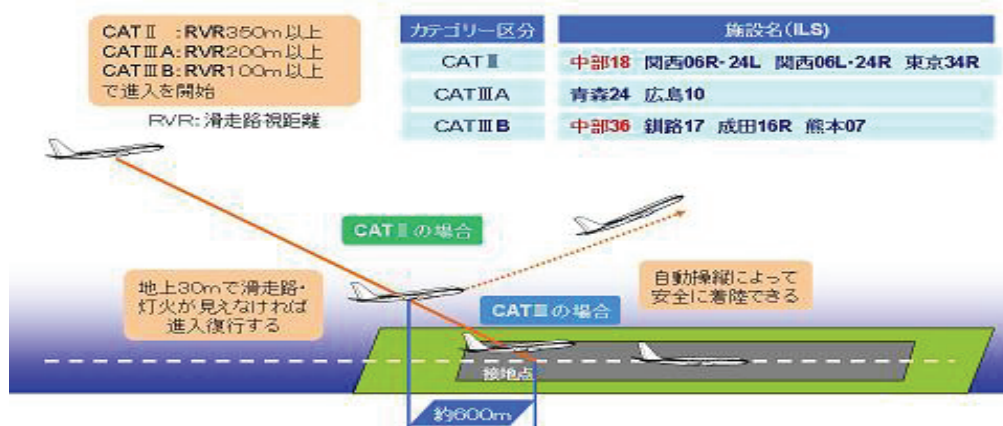
CATⅢには、より高い信頼性と継続性が求められるため、CATⅢAでは4,100時間、CATⅢBでは9,300時間の運用評価が義務付けられています。セントレアのILSは昨年11月初旬にCATⅢB運用評価を終え、必要な手続きを進めておきました。CATⅢBの運用が開始されますと、開港後経験した最も低視程での状況でも就航が可能となります。

CATⅢBの運用開始は国内で4番目ですが、両方向の滑走路に高 카테고리ILS(CATⅡ以上)を備え、片方向はCATⅢB運航が出来る空港は国内唯一セントレアだけで、国内で最も視程が悪い状況でも就航が可能な空港に進化します。

2. カテゴリ(CAT)Ⅲとは

ILSは、着陸のため進入中の航空機に対して指向性のある電波を発射し、滑走路の正確な方向、進入下降角度および進入コース上の位置を指示する着陸援助装置です。ILSによる精密進入着陸を行う場合、それぞれの カテゴリに応じた滑走路視距離(RVR:滑走路中心線上の航空機のパイロットが滑走路中心線灯などを視認できる最大距離)や決高(DH:その高さにおいて滑走路・灯火を視認できなければ着陸を中止しなければならないという高さ)が決められています。

たとえばCATⅡ運航はこの条件がRVR350メートル以上かつDH30メートル以上の精密進入着陸となります。そしてCATⅢA運航はRVR200メートル以上、CATⅢBはRVR100メートル以上の精密進入で、自動操縦によって安全に着陸することができます。



3. ILSカテゴリー(CAT)Ⅲによる効果

セントレアで過去に経験した海霧等の低視程時において、航空機の就航が可能となるよう ILS の CATⅢ化を行いました。今後、海霧等の発生があっても地上施設に起因する欠航は解消され、低視程時における就航率が上がることで、セントレアの利便性が向上します。

A large, light blue watermark of the Centrair logo is centered on the page. It consists of the word "centrair" in a lowercase, italicized, sans-serif font, with a stylized, curved line above the "e" and "n" suggesting a wing or a flight path.